

本当の平和とは

読谷中学校

三年

嘉納

佳子

今、沖縄が抱える一つの大きな問題。それは、やはり、普天間基地施設問題。最近では、この問題を耳にしない日はないくらい、さまざま報道機関で、取り上げられています。日本全国にある、アメリカ軍基地のうち、約七十五パーセントが沖縄にあるといわれています。ます。そんな沖縄は、長年、戦闘機の騒音や、米兵による事件に悩まされてきました。

2

一九四五年、沖縄では、住民をまきこむ、地上戦がおこなわれていました。この地上戦では、およそ二十三万八千人の尊い命が失われ、そして、多くの悲しみが残りました。私と同じ年くらいの子供は、女は学徒隊、男は兵隊へと送り出され、お国のために自分の命を捧げなさいと教えられ、戦上へとむかいました。

学徒隊は、学校での英語の授業を禁止され、竹やりを持ち、人を殺すための訓練へと変え

榴弾を持っていったそうです。

また、学生の兵隊は、自ら爆弾をもち、敵の戦車に投げたり、特攻隊となり、敵の船につつ、こんだりとい国のために死ぬるのなり。とたくさんの若い命が失われていきました。そして、本来なら住民を助けるはずの日本兵は、がマの中で泣き叫ぶ。小さな赤ちゃんや子供を銃でうったそうです。また、方言を使いた、おしいやおばあを非国民と言いな。のまよいもなく、銃をむけ、殺したそうです。

ら水でいきました。こんな気持ちで、このよ
うな訓練をうけていたのでしょう。私だ、
たら、心ぼろさと恐怖で、逃げ出してしま、
ていたかもしません。また、兵隊の看病だ
けではなく、死体の処理や、爆弾作りなどの
作業もさせられていたそうです。このような
仕事を、私と同じ年ごろの人がやっていたな
んて、今の時代では、考えられません。そし
て、曰敵の捕虜になるくらいなら、自ら死に
たさいと教えられる、常に一人一つずつ、手

どうして、同じ日本人なのに、日本人が日本
 人を殺すという恐ろしいことがあこつてしま
 ったのでしようか。がマの中は暗く、隣に誰
 が座っているのかさえも、分からなほいほど
 ったそうです。食べ物もなく、水もなく、み
 んな生きる気力をなくし、いつ死ぬか分から
 ない恐怖におびえていたそうです。また、あ
 るがマでは、アメリカ軍に殺されるのなら、
 自分で死のうと、家族どうしに殺し合い、多
 くの命が犠牲になりました。

私たちは今、何の不自由もなく、生活して
 います。しかし、これは本当に、平和とい
 てもいいのでしうか。今だに解決されな
 普天間基地の施設問題。いくつかの案が出さ
 れましたか、受け入れ先がなく、結局は、沖
 縄の別の場所に、新しい基地を作るという案
 が出されていきます。基地は本当に、私たち
 に必要なのでしうか。基地を作ることによ
 り、美しい沖縄の自然がさらに消えてしま
 うように感じるのは、私だけではないか。

六十五年前の戦争で多くの犠牲をはらった
沖縄だからこそ、大きな声で、戦争反対、基
地反対といえるのではないのでしょうか。私
は戦争を体験したことは、ありません。しか
し、同じあやまちをくり返さないように、戦
争の恐ろしさ、悲惨さを語りついでいきたい
と思います。

7

私たちの求める、本当の平和とは、何でし
ょうか。一人一人が改めて、平和について考
え、行動すれば、沖縄に、本当の平和が見え

8

てくるのではないうか。